

銀座余情 能 山姥

十一月十九日(土)午後一時開演 観世能楽堂

お話

「山めぐりするぞ苦しき」

村上 湛

— 休憩 —

能

遊女
(百万山姥) 大槻 裕一

山姥 女 大槻 文藏

山姥

長杖之伝

従者 福王茂十郎

供人 福王 知登

里人 野村 万作

大鼓 亀井 忠雄 太鼓 三島元太郎

小鼓 大倉源次郎 笛 松田 弘之

後見 武富 康之

赤松 禎友

地謡 安藤 貴康

川口 晃平

齊藤 信輔

松山 隆之

谷本 健吾

山崎 正道

梅若 紀彰

角当 直隆

(出演者番組が部変更になる場合がございますので、予めご了承ください)

必見!!五人の人間国宝が顔を揃える偉大な傑作「山姥」 能と狂言、東西の豪華出演者による珠玉の二公演

十一月十九日(土)午後五時開演 観世能楽堂

お話 村上 湛

— 休憩 —

果報者 山本泰太郎

お話 村上 湛

太郎冠者 山本凜太郎

すっぱ 山本 則孝

後見 岩松 隆

《茂山家》

太郎冠者 茂山あきら

主人 網谷 正美

次郎冠者 茂山千之丞

後見 増田 浩紀

《野村家》

僧 野村 萬斎

田舎者 石田 幸雄

新発意 野村 裕基

参詣人 野村 太一郎

内藤 連

飯田 聡史

岡 月崎 晴夫

後見 中村 修一

(出演者番組が部変更になる場合がございますので、予めご了承ください)

銀座余情 能と狂言 東西狂言 三家三様

村上 湛

むらかみ たら



明星大学教授。石川県立音楽堂邦楽主幹。演劇評論家。1963年生まれ。早稲田大学・大学院に学ぶ。文化庁芸術祭審査委員、芸術選奨選考審査員等を歴任。『朝日新聞』歌舞伎批評欄を担当。能の復曲・新演出・新作にも数多く携わる。著作に、『すぐわかる能の見どころ～物語と鑑賞139曲』（東京美術）、『村上湛演劇評論集～平成の能・狂言』（雄山閣近刊）のほか。

大槻 文藏

おおき ぶんざう



人間国宝。シテ方観世流。1942年生まれ。祖父十三、父秀夫および、観世寿夫、八世観世鏡之丞に師事。1947年「鞍馬天狗」にて初舞台、以降、三老女の披露とともに、復曲能、新作能にも積極的に携わる。紫綬褒章、旭日小綬章、日本学賞など受賞多数。公益社団法人能楽協会大阪支部長、大阪能楽養成会副会長、大阪文化芸能国民健康保険組合理事、公益社団法人大槻能楽堂理事長。2016年に重要無形文化財保持者各個認定(人間国宝)。2016年度、日本芸術院賞受賞、2018年 文化功労者選定。

◆解説◆

能「山姥」 やまんば

都に名高い遊女・百万山姥が信濃国・善光寺参詣を志し、越後国・境川から難所の山越えをする。突如として暗くなった山中に現れた女は、百万山姥を引き留めようとした山姥の化身だった。

山姥はやがて正体を示し、「山めぐりの曲舞」に合せて舞うと、いずこともなく消え失せる。

世阿弥が作った能の中で筆頭に挙げられる偉大な傑作。古くからの土俗を背負う「山姥」の存在に広大な宇宙観と深遠な哲学性を籠め、秀抜な修辞で綴られた詩劇的理想である。

「鬼女」である山姥は邪悪なモノではなく、人恋しさを具えた超自然的怪物。春夏秋冬の風物を愛で、人の世のあはれに心を寄せながら、永遠に孤独のまま無限の「山めぐり」を続ける。その「山めぐり」とは何か……見る者を深い思念に誘う劇的テーマである。

今回は小書(特殊演出)「長杖之伝」による上演。舞踊部分に杖を突く所作が長く入り、「山めぐり」のさまを印象的に強調する。

(「能解説」村上湛)

◆あらすじ◆

「末広」 すえひろがら

果報者の主人のいつつで、太郎冠者は「末広がり」を買いに行きます。ところが、末広がりが何か知らない太郎冠者は、すっぱ(ベネ師)にだまされ古い傘を買わされてしまいます。喜んで帰宅した太郎冠者に、果報者は末広がりとは扇のことだと言て怒りますが……。

太郎冠者が品物を取り違える狂言は多くありますが、中でもこの曲は品物のおめでたさや囃子物の楽しさもある人気曲です。

「狐塚」 きつねづか

豊作を喜ぶ主人は、鳥に田を荒らされては困るので、太郎冠者、次郎冠者を人里離れた狐塚に鳥を追いに行かせます。冠者たちは、狐塚には狐が化けて出る話をしながら田へ向かい、鳴子を引いて鳥を追います。夜になり、主人が酒を持って訪ねると、二人は狐が主人に化けて出てきたと思ひ込み……。

「ホイホイ」の掛け声で鳥を追う、秋らしい抒情にあふれた作品で、後半、主人を狐と勘違いし、正体をあげようと繰り広げられる賑やかなやりとりが笑いを誘います。

「小傘」 こがらがさ

田舎者が村に草堂を建立しましたが、堂守がないので街道に出て探していると、僧と新発意(出家して間もない修行中の僧)がやって来たのですぐに連れて帰ります。しかしこの二人、実は博奕で食いつめた主従でした。法事が始まると、僧は賭場で聞き覚えた傘の小歌をお経のように唱えて参詣人たちを「ごまかし、皆が法悦に浸っている内に新発意に施物を盗ませよう」としますが、なかなか上手くいきません。そうしているうちに念仏は益々高揚していきます……。

中世のどのような様子がかがいが知れる曲です。にわか坊主が傘の小歌をお経のように唱えるところが一つの聞きどころです。首尾良く事は進むのでしょうか……。

ご来場のお客様へのご協力をお願い

●発熱(37.5℃以上) 咳などの風邪の症状や体調不良の方はご来場をお控えください。●マスクの着用、咳エチケットにご協力をお願いします。●マスクをご着用いただけない場合、入場をお断りする場合があります。●入場口での検温にご協力ください。●37.5℃以上の場合、入場をお断りさせていただきます。●各所にアルコール消毒液を設置しております。随時手指の消毒にご協力をお願いします。●密集密接を避けていただくため一定間隔の確保にご協力ください。●客席内での会話はお控えください。●客席内での飲食はお断り致します。●持参の飲料は口ピアでお断り致します。●出演者へのプレゼント、面会はお控えください。●自治体によるコロナ追跡システムへの登録は、協力ください。●来場の際は、チケット半券は必ずお名前・お電話番号を記入ください。●お客様の個人情報には必ずお管理し、目的以外には使用いたしません。万が一ご来場のお客様の中から感染者が出た場合、感染経路確認と対策のために情報の提供等にお客様の情報を開示しご連絡を申し上げます。●ご来場にお越しの際は、ご迷惑をおかけいたしますが、何卒ご理解とご協力の程、宜しくお願い申し上げます。今後の状況により、変更となる場合がございます。予めご了承ください。



観世能楽堂 GINZA SIX B3F 東京都中央区銀座6丁目10番1号 GINZA SIX 地下3階